

狭く強靱に深いものがあるのでせう。やはり広く遅しいのが第一流であり、狭いのが第二流かな。

そして芸術以外にも、例へば歴史学などにも、この二種が考へられる。偉大なものはすべて広くて遅しくて内面的脈絡が豊富で、現実そのものの無限さを感じさせる。「カピタル」「発達」その他すべてしかり。我々も常にそれを目がけたいものです。

午後六時半に中尾課長が来て、本室へも電話しましたが、今日は普通のところは大体安全のやうです。ここから見えた限りでは、三鷹の中島ヒコキあたりから、天にチュウする黒煙がもうくくと立つて、四時頃には、この辺の空にまでうつすらと煙がかかりました。米機の進路は大体伊豆方面から箱根か富士のふもとの線を北上し、中央線に沿って東へ進路をとり、そのまま江東へ行くのと、中島ヒコキ辺から右に折れて、丁度経堂辺の上空を通つて京浜地区へ向ふのとがわかれるやうです。今日はとにかく四発が見え、青い空へ銀色の緋模様を展開しました。バク弾の音は遠くの方で相当長くつづきました。

晴れてゐる方がいいです。そのかはり今日は水道の水が出ません。では今夜はこれで。

幸子から謙一あて（一九四四年二月三日夜の記）*

十二月三日夜

午後から七節のノオトをずっと読み返しました。前のを読み返さないから何とも云へませんが、熱がないと云つたのは矢張り読み方不足のせいの様です。どうも気分がわるくて、ぼんやりしてしまふ方が多く、いろいろ感想もまとまりません。

何だか今日は目をつぶつてぢつとしてゐると、此の前東京へ行つた時の事ばかり思ひ出されます。廿八日の朝、経堂へついた時の事、うす暗い玄関でまつてゐた時、あなたが特徴あるピョン／＼と云ふ風な、其のくせスリッパをひきつり乍ら出て来た様子だとか、まるでサン・ルームみたいに陽のあたるあの十畳ま、菓子鉢の中のオヤキとおイモ、其の夕方銀座へ食事に出た事は、あまり生々しく浮んで来ません。それから冷蔵庫の部屋、あそこはとても印象が強い。どう云ふわけかしらないけれど。そして妙に物悲しい気分になつて来ます。何も彼もどうにもならない八方ふさがりばかりの様で、淋しくなつて来ます。

今日はとくに風がひどくて、さむい日です。すきまから吹きこむ風のさす様な冷めたさです。山には雪が来て、此の辺はあられです。身体具合がわるいせいか、どうもめいつて来てなりません。

七時のニュースで又、帝都空襲をききました。二日おきの定期便になった様ですね。深夜の空襲より、ひるまの方が危険率は少いでせうね。廿日未明の様子では、随分恐かつた様ですね。こちらは警報を知らずに、電灯をつけ放しの家も相当あつたらしい。どうも、田舎は呑気すぎていけませんね。ことに鼎村は、防空ごうほつてある家はないし、演習も私が来てから一度もありません。此の辺は安全と云へば安全かも知れませんが、灯管は守る様にしないで。こうひんぴんと定期便が来ると、経堂だつてあぶないものですね。生命あつての物種ですし、仕事も生命あつてですから、早く引上げなかつた方がいいでせう。段々と本すら送れなくなる可能性がありますから。今度のなんて、そんな事でやかれたら、本当にもつたない。でも引き上げて来ても適当な職業があるかどうかかわからないし、家もみつかるかどうか、その辺の事を考へるとどうも困りますが、何にしても生命あつてですもの。そんな事はあなたの方がよつぽど考へておるでせうから、とや角云ふのは止めませう。絶まない不安、と云ふのが、現在の誰でもの心理なのですから、あれこれ騒いでもし様がありません。

今日は東京も随分寒かつたでせうし、風も激しかつた様ですから、大変だつたのでせうね。あなたの本、中々出ませんね。なんと長くかかるのでせう。あまり本式の空襲の来ぬ中に出ればよいのに。グローヴのはどうなつて？ 印刷になつたかしら。

今日の毎日の「的」と云ふランに、アメリカの國務長官ハルの後任の記事が出てゐましたね。今度のはモルガン財閥直系で、帝国主義的世界征□のろ骨な姿だとか書いてゐました。もうハルの様な「保守的」丈の役目がすんだのでせうか。

第七節、どうも力ぬけしてゐると云つたのは、始め書いた通り、よみ方の方の力ぬけだつたらしいですわ。軽率な事を云つてすまなかつたと思ひます。結局、今まで読んで来たところが、第七節で全部生きて来てゐるのですが、一ツ一ツではなくて総合されて押し出されると、一寸戸まどひした形で、何処をつかんでいいかわからない様な感じがしたので。今のところ七節は、前と異つて非常に面白くよみ、殊に⑩は特に興味深くよみました。

どうもここ一週間、風邪やら胃が変で気分わるく、今までの様に勉強出来ず、今日よう／＼九のノオトを終つたところ。さぼつてゐる様ですみませんけれど、かんべんして下さい。ずっと胃に変調を来たして、たえず吐気がしたり、

空腹感を覚へたり、一寸も落ちつきませんの。それに物のにほひがはなについて、てんこのニッケの紙のにほひをかぐと、頭痛と吐気が来るので困った事もありました。明日から又、シヤンとしてせつせと始める事にしませう。では今夜はこれで、おやすみなさい。御ぶじを祈ります。

謙一様

幸子

※この手紙文は二月四日付け、五日消印の封筒中に挿入されていたが、元は一つ手前の二月三日夜付け、四日消印の封筒に入っていた可能性がある。そして二月四日付け、五日消印の封筒中には本来、先に掲載した二月三日付け、同日消印の封筒中に現存する手紙文が入っていた可能性が高い。

謙一から幸子あて（一九四四年二月四日の記）

十二月四日（月）快晴

快晴が続きます。

お手紙No.39、40（十一月三〇日夜と十二月一日夜）とを拝受。

いろいろ御心配下さつてありがたう。三月頃までに必ずそちらへ行きます。それまで無事ならば。無事と云ふのは生命でなく、応召その他のことですが。生命は責任を以て保ちますから。何しろ、生活も仕事も僕にとつては一切が之からなんですからね。それとは別に、あなたは自信を持つて下さい。歴史と云ふものを学び、歴史的現実を人間がいかにして生きぬいて来たかを学び、生きなければならぬ。生きるると云ふことにかけては、アンネットは逞しい。空襲の方は、万全の策をとりますから、御安心下さい。空襲なんかでは絶対に死ねませんからね。次の時代にアメリカ史を出版せねばならない。

僕の腹はなほつたが、痔はやはりなほりません。此の頃はもういももは入らないし、肛門を通過するものの絶対量は大分減少してゐるのですが、どうもあの時余ほど冷えたのでせう。

あなたの身体はどうなんですか。本当に赤ん坊が出来るのならいいけれど、他の何かで熱が出たり、その他の故障が起つてゐるとすれば心配ですから、よく注意して下さい。赤ん坊なら、今度こそ、我々の全力をあげて上手に育てませう。

一人子でも、早苗と一緒に育てられればいいし、自信を以てやりませう。僕も赤ん坊が出来さうだと云ふことだけで、仕事に張り加はった感じですよ。之が何かのまちがひなどでないやうに。

此の頃の僕の手紙は、あなたとの生活についてよりも、僕の周囲の生活のことばかり書いてゐて、或ひはあなたを物足りない思ひにさせてゐるかも知れないが、僕は毎日長い手紙を書くこと自体が、あなたとの接合であると感じ、あなたとの交合としてペンをとることを楽しみにしてゐるのです。恐らく、遅くとも来春三月頃から、信州であなたとの新生活を始め得ると思ひますから、それまではかう云ふ形態の交合でがまんして下さい。僕のいろんな人との対話は、あなたとの原宿時代の生活にいろんな人の訪ねて来るのと対話した、あれと同じもの、あれの延長であり、今でもちゃんとあなたは僕と共にゐる筈です。あなたがゐたとしても、恐らく僕の意見に共鳴してくれてゐるにちがひない。僕自身いつもあなたの耳を、眼を、発言をも、意識しつつシャベツてゐます。だからいつも思ひ出せるだけ対話を書くのです。

さて今日は、午後、森井さんが来ました。いねちやんの下宿は、森井さん、白田君のゐる「向日荘」にすることにしました。いねちやんが僕に一任したので、今日はいねちやんから電話がなかつたけれど、二人によろしく頼んでおきました。向日荘は東松原町にあつて、ここから三十分ぐらいださうだし、疎開としても先づ安全だし。食事は朝夕二食ですが、いねちやんが挺身隊として勤めれば、大てい昼食が出るさうですからいいでせう。二食で米は三食分たべさせるさうで（食堂）、白田君は一回分としては多すぎる、余るくらいだと云つてゐます。

ところが今日は白田君も、森井さんの会社から挺身隊に志願して、目黒の陸軍光学機械工場へ行かうと云ふことになりました。森井さんの出版会社へも割当てて来たのださうですが、志願者がなく、出版会一般に数十人乃至百人が割当てられてゐるわけなので、是非いい人を行かしたい、「白田さんどう？」と云ふのです。白田君はこの二ヶ月間に、三年越しの恋愛的な悩みを自力できつぱり解決をつけ、人生と云ふものに自信と愛情とを獲得し、物の考へかたもしつかりして来たし、現実の理解力も行動のしかたも確かになつて、僕も「もう君のことをあまいとは云はないよ。あまくなくなつたらしい。今の調子で生活をうちたてて行くんだね」とはげまし、彼女も「さうだわ、あたし何だかこわいものになくなつたやうよ。前とはかわつたわ。何だか世界と云ふものがわかりかけて来た感じですよ。独りで立派に生きて行く自信が出来たやうよ。さうね、以前はあまかつたわね。森井さんは始め『あまい』と云ふ言葉はいやな言葉だて云つてたのよ。だのにいつの間にか、あたしたち二人とも、あれはあまいとかあんな考へかたはあまいとか云ふやうになつてゐるのですもの。おかしいわね」などと云ふやうになつてゐるのですが、まだ生活の方針が本当にきまつてはゐなかつ

たのです。今朝なども「自分の仕事と生活とをはずきりつかまへて、うち立ててゐる人はうらやましいわ、菊池さんがうらやましいわ。あたしなんか、ちやんとした生活と仕事とをつかみたいのに、つかめばきつと立派にやつて行けると思ふのに、何にもないんですもの」と云ひ、「農村か工場かへ行かうかしら。菊池さんが信州へ行ってしまへば、あたしここにはゐないわ、谷川さんや西井さんなんかのゐる所にゐられないわ、さうなれば追ひ出されるわ。信州で何か仕事探していただけないかしら。だつてあたし、兄が死んで、之から完全に独立に生きて行かなくちやならないのですもの」とも云つてゐたところなのです。

「あたしも年令の制限がなければ、志願して行きたいのよ」「年令に制限あるのですか」「三〇才なの。とにかく工場で大勢の働く人々と一緒に働くことは、之からの人には必要よ。空襲の危険なんかは、びく／＼してゐたら、生きて行けやしないわ。直撃弾さへ当らなきや大丈夫よ。あたしの知つてゐる人なんか、品川の大きい工場の間にはさまつた小さな設備の悪い工場なのに、自分から進んで行つたのよ。この時代をみんな働く人達が、さう云ふ空襲やいろんな困難の中を生きて行くんですもの。みんなと一緒に生きて行けない筈がないわよ。あたしも、みんながいやがるので困つてゐたら、あなたが、工場かどこかへは入つて、もつと甘やかしのない生活を体験し、自分の生活と云ふものをしつかりうち立てたいて云つてたでせう。あなたなら立派にやつて行けるし、あなたとしても、社会と云ふものを知るいいチャンスだと思つたものだから、会社の方へもちよつと心あたりあるからと云つて来たのよ」「それでいつからなの」「それが迎も早いよ。六日に出版関係全体で合同壮行会、これには是非出てほしいの。そして実際に行くのは十日ごろかしら。条件はさう悪くなくつてよ。契約は一ヶ年だけれど、途中で結婚やその他の事情でやめることも出来るわ。一年すめば、会社の方でやつてもらふことになるの。でも菊池さんのお仕事だけが心配ね」「いや、僕の方の仕事で白田君に頼んでゐるのは大したことぢやない。代りの人が来て頼めるし、僕がやつてもいいんだから」「いえ、あたし、これやるわ、家へ持つて帰つてでも。でも、あたし、ここにゐても、菊池さんが行つてしまつたら、追ひ出されるにきまつてゐるんですものね」「菊池さん、どつかへ行つてしまふの、奥さんのところへ本當にずつと行つておしまひになるの」「ああ、向ふで仕事を完成するつもりなんです。それにね、まだよくわからないけれど、どうやら僕にも子供が出来らしいんだ」「あら、それはよかつたわ」「それはすてきだわ。それぢややつぱり田舎でなきやいけないわね。今度こそね」「うん、今度はうまく育てますよ。ただお産だけが心配だけれど」「初めてぢやなければ大丈夫よ。でもよかつたわね」「おめでたうつて云ふんかしら」「いやまだはつきりとわかつたわけぢやないんだ。それに、さうとしても来年の八月かそ

こいらだらうね。そのころは日本もどうなつてゐるかなあ」「挺身隊だつて、情勢が逼迫すれば、どうなるかわからな
いわよ。でもそれぢや臼田さんの転進も晩かれ早かれなのね。だつたら今菊池さんに少し急で御迷惑でも、このチャン
スをとらへなさいよ」「菊池さんはどうお思ひになる?」「うーん。さうだな。妹は信州へ帰る気がないと云つたから、
半ば疎開の意味も含めて、工場入りをすすめたんだが、……さうだな。どうも僕には、それだけではよくわからない。
臼田君もうんと考へるところだ」「さう。……あたしやつぱり行くわ」「それぢや行きなさい。あとのことは僕がして
あげるから」。

「あたし、行くわ。でもこんなに工場へ行く気になるのなんか、菊池さんのおかげよ。ここで話きいたおかげよ。以
前だつたら逆も考へも及ばなかつたわね。でも、どんな風に辞職しようかしら」「なあに、君の兄さん死んだだらう。
そいでお母さんの所へ帰らなきやならなくなつたと云へばいい。明日朝書いて来たまへ。今般家事都合により辞職致し
たく、この段御願申し上げ候也とやればいい。そして谷川君と中尾さんとに、お母さんの所へ帰るのだと云へばいい」
「でもあたし一ヶ月半も休んだでせう。そして半年しかゐなくて悪いわね」「そんなことはないよ。だが、谷川君にはね、
いろく我がまを云つてすみませんでしたと云つときなさい。でないと奴さん、自分のせいせゐかと思つて気にするから
ね」「あたし、このお仕事、家へ持つて帰つてやるわ。いいでせう」「いいけどそんな必要ないよ」「あたしに出来れば、
やつてあげるわよ」「いいえ、あたし、やりたいの。でないと菊池さんのところへ来て、何一つしなかつたことになる
わ。それから上田さんと村野さんの紹介だから、お二人にあいさつしないといけないわね」「上田君なら僕やつといて
あげる。荷物は大したことないんだらう」。

そこへ矢田君と云ふ友人がたづねて来たので、二人の女性は僕の部屋へ残しておいて、応接室で三十分ぐらい空襲その
他の話をしました。世日朝の空襲に、僕が寐て了つてゐて、知らなかつたと云ふことは、あちらこちらへ伝はつて評判
になり、研究室でも話題になつたさうで、今井先生も「あの君はよく寐るからね」と云ひ、金沢君なども、ろくすつば
僕を知らないくせに「菊池さんはよく眠るんだよ」などと云つて、いつの間にか僕は天下の大寐坊になつて了つてゐる
らしい。今井先生なども一体どう云ふわけで、僕がよく寐ると云ふことを知つてゐるのか、考へてみるとおかしい話で
す。だが之は研究室だけでなく、本室でも評判で、それほどあの朝の、いやあの夜の空襲は猛烈だつたのです。大てい
の人は防空壕へは入つて泥んこになつたんださうです。昨日の空襲は交通機関に大分ひびいて、中央線などは今日なん
かもえらい不規則ださうです。荻窪の矢田君なんか、防空壕の中で生きた空もなく、と云ふほどに近かつたさうです

から。

矢田君を帰してから二階へ上ると、二人があのままおしやべりしてゐました。何となく、あなたの話などから、いつの間にか僕は、我々の結婚のいきさつを話してゐました。二人とも中々熱心にきいてくれました。話しながら思ったことは、僕が結婚の決心をした時、愛情の永続性について、はつきりした理論的根拠を發見したこと、「愛情とは人間関係の心理的反映である」と云ふ、愛情の唯物論的理解を獲得したこと、このことが実に重大だったと云ふことです。何故なら、これこそ森井さんの愛情理論、神秘主義受動主義的愛情論理と全く対立する論理であり、これこそ本当の人間的な愛情の把握だからです。いはば此の簡単な命題から、僕の生活論理から歴史理論までが、唯物論的なたしかさをつかんで来たのです。そのことをしみじみと思ひました。もう一つ思ったことは、池田君に対するあなたの気持について、「同情」と云ふことと「気の毒」とを判別し、前者は実践的結合的感情で正しいものであり、後者は離脱の感情であつて、本質的感情でないと云つたこと。あれは不健全なもの非論理的なものに対する態度の決定に重要なのです。僕が、中島君にさへあつたドストエフスキー主義―不健全、非合理、廢殘への嗜虐的愛好―を持たず、之を憎み、口をきわめて否定する理由は、我々の結婚が、不健全、非合理、廢殘との苦しい斗(闘)ひを通じて実現したものだからだと思ふ。あの時の池田君の態度は、不健全であり廢殘的であつた。彼は自らの敗北感の中で、少しでも人間的に立ち直らうとするのでなく、却つて廢殘的な自己放棄を固執しようとした、そのことと僕達がどんなに斗(闘)はねばならなかつたか。廢殘への「気の毒」と云ふ感情が、実践にとつていかに有害であつたか。我々も決して廢殘的になつてはならない。話してゐる中に暗くなつて来たので、二人は帰りました。四時半だつたかしら。いねちゃんが来るかと思つたら来なかつた。二人が帰つたあとに、菊の花が天竜やきの柿の模様(く)の壺(く)がに入れてあつた)にさしてありました。では今日は之だけ。

幸子から謙一あて（一九四四年二月四〜五日の記、五日の消印）

十一月四日夜

今夜よう／＼七節のノオト全部終りました。

明日は一日かけて、もう一度緒論のノオトと七節全体よんでみませう。何度もよむと、前に理解してゐなかつた事がは

つきりして来るし、部分／＼に押されず、全体的理解が出来るようです。七節は矢張り一番面白いところでした。あなたの力を入れた丈の事はあるのです。此の前の手紙の時は矢張り部分／＼に庄とうされて、其の限りに於ての感想であつたように思ひます。

でも私はブランティション問題もアメリカの歴史も、一寸も他のものを読んでゐないので、全部が全部目新しい事実ばかりで、他の人のと比較してなんて云ふ事を知らないのです。あなたのオリヂナルなものがどれであるなんて抜き出せないのです。一般の読者もそんな比較の出来る人はあまりないのでせう。さうして事実にうたれて庄とうされるでせう。一寸よんだファランドやジェームスのアメリカ史とは、うんと異つてゐる事は私にもわかりませんが、—あれをよんで、あれがあなた丈の始めての見解か、今までこんな見方はなかつたのか、なんて判断は、とても私の現段階では出来ない事でした。

始めて絵を見た者が其の絵に庄とうされる如く、比較すべき何もも持たぬ者は、唯、始めて見る事実に呆然として驚いてゐる丈なのです。云つて見れば批評以前なのですから。併し、確に、それが自分達とム関係ではないこと、ム関係どころか多いに關係ある事を知つて又々驚く、さうしてまはりを見る事を知り始める。そしてこれこそ求めてゐたものだつたと思ひ始め、絵と云ふものに興味を持ち始める、—丁度そんな段階に私がゐる訳です。

よくこんな事を云ふでせう。昔、両替屋の主人は新米の子僧(小僧)ににせ金と本物の小判の区別を教へるためには、始めの半年は本物ばかり扱はせる。すると後で、どんなに巧みに出来てゐても、にせ小判は見破る。始めにせ金も本物も一緒にまぜて扱はせると、五年立つても十年たつても（いくら修業を積んでも）時々だまされてしまふ、とか。だから其の(で)んで、私も今後は歴史をよむ時、これは正しい扱ひ方かどうか、きつとわかる様になると思ふの。

十二月五日

緒論のノオト、午前中よみ返しました。特に四から七までは又、新しく面白くよめました。

今日、古い改造を見たら同封の記事がありました。知つてゐる事はかりでせうが送つておきませう。

今日は風がありますが暖かです。矢張り胃の具合わるく、さつぱりした気分になれません。此のごろ、毎日手紙が来ましたから、今日も来るかと思ひましたが、もう四時すぎたから来ませんね。此のごろ、どうも気分すぐれず、わるい手紙ばかりですみません。

幸子から謙一あて（一九四四年二月五日の記、七日の消印）

今日、戦争政治と南部問題をもう一度読み返しました。そしてあなたの云ふような粗雑（おろそか）なものとは、どうしても思へなかつた。むしろあれ丈の短いものの中に、よくあれ丈書けたと思つた。人種的偏見の基礎も、その起つて来る所以も、ローズベルトの改革政治への反動運動も、南部の特殊な社会、性格―その国家への反映、南部的反動的保守的政治家の裏も表も、そして問題のありどころも提起も、あなたとしては不満足であつたとしても、適切に表現されてゐると思ひます。あれ以上を、あの枚数やあの提出されたテーマでは、書き様がない位に思ひます。プランテーションの方を読めば、もつと南部のプランテーション制度の前資本制的な遺制の害悪が、どれ程大きなものであり、アメリカ国家自身が其のプランテーションの発展の歴史と、切つても切れぬ関係にあること、プランテーション制度の歴史こそ、アメリカの現在を形作つて来たものである事がわかるのですが、あの原稿はあれでいいと思ひます。あなたのもつと書き度かつたところがあつたにせよ、あれ以上のぞむだつて慾深すぎると思ひました。書くときの主観的な気持が、プランテーションの原稿を書いた時程、最高潮に達してゐなかつたのでせうが、提起してゐる問題は、同じ情熱の中で消化されて出来たものから。

それにしてもプランテーションの印刷の運命はどんな風になつたのかしら？ すこしおくれても世に出られる様にあつてほしいものです。全く考へれば、あの原稿は書き始めからして、トラブルの連続でしたね。さうして今度のがどんな災害であるかわかりませんが、最後の大きな障害なのでせう。まるでオディッシュユウスの偏歴（偏歴）くらい難関（難関）がありましたね。どうぞプランテーションはあなたにも私にも、実に大きないろんなものを与へて来てゐるのですもの、かん単（かんたん）に祈ります。プランテーションはあきらめようと思ひません。プランテーション号よ、空襲の被害もけんえつ（けんえつ）の嵐も力の限り斗つて、苦斗の姿で港にはいるよう。お前の積荷は、人々への最大のおくりものである。今まで人々が無知の暗やみの中で、無意識に求めた光なのである。それはブラツベルト（フ脱）の貶しめられた人々への解放の光ともなり得るし、世界の貶しめられ疎外された人々が、今の自分をよく知るため、よく見るための光でもある。プランテーション号よ、苦しみに克ち波浪を越えてお前の積荷を運んでおろす。かつて昔、人類がプロメトイアの火をまつたように、今も人々は

きけされた暗やみの中で、お前のつくのをまつてゐる。

夕方から夜にかけて、きぶんのわるいのがなくなりませう。夜はもつぱら勉強にあてる事にしませう。

あなたの方、此のごろ食料は如何？ 粉ももうないでせう。今度のお米の1-3は粉でくれましたから、こちらは毎日すいとんです。とてもわるいくらい粉。

此のごろの様に空襲が定期便になると、小包送つてもどこかの局の中でどうにかかなりさうな気がして、小包みを作るきがなくなつて来ます。夜はお炬燵でも作り始めましたか。白田さんは又、ばかにかんたんにきめてしまつたんですね。手紙を書いてゐる中に、もう彼女の心持は決つてしまつたのですね。それ程に彼女の考へ方が進んでしまつたのですから、もう昔考へた様な形の恋愛は、彼女に必要でもなくなり、価値もなくなつたのでせう。矢張り彼女が自分で云つてゐる通り、脱皮したのでせう。一ッ大きくなつたのでせう。今後の白田さんの行動こそ興味あるところです。

竹中さんの方はまだはつきりしないのね。彼氏も中々抵抗しますね。
では今日はこれでさようなら。

十二月五日五時

謙一から幸子あて（一九四四年二月七日の記）

十二月七日（木）晴

お手紙は404142と、ずつと受取りました。

身体は依然余りよくないのですね。心配してゐます。本当に赤ん坊のことでなら安心ですが、外の理由の病気だつたらこはいから、よくみてもらつて下さい。もう元氣だと云ふお手紙を毎日期待してゐるのに、やつぱり悪いらしいので心配です。僕のことには心配しないで、病気をいたはつて早く元氣になつて下さい。せめて早く風邪でもなほつて下さい。身体をよくない時には、読んだり書いたりも無理しないやうに。「プランテーション」もそれだけよく読んでくれれば満足です。五日に伊藤書店へ寄つたら、「プランテーション」は大丈夫だと云ふこと、印刷がおくれてゐるので、来月始めか、なることをきいて一安心しました。来月の五日のあなたの誕生日のプレゼントに出来ればすきですが。北条君も読みたがつてゐたし、森井さんにも読んでもらひたかつたから、鶴田君に再校のゲラ刷りあるだらうかと云ふと、彼は自分でちゃんとどちで持つてゐてくれたのでした。土曜日ぐらいに持つて来てくれるでせう。あなたが赤ん坊をう

むまでに、南北戦争を書きませう。目下は戦争史の方で相かはらず苦吟してゐます。いろ／＼書きなほしてゐるが、中々思ふやうにいかない。此の頃僕の筆は逆も遅くなりました。グロウヴのものはすつかりぶちこはしです。参謀本部で勝手にいろんなことをくつつけて、二倍ぐらいにしてつたさうで、悲観しました。やつぱりああ云ふものは駄目ですね。ダイヤモンドの方は雑誌の十二月一日号へ出しました。大分無理して書いてゐますが、読んでみて下さい。別便で送ります。なほたばこは昨日送りました。小包は大分ならぶので、出しにくいのです。三等郵便局でうつけけない為に、二等で混むのです。

手紙を二日サボつてすみません。

五日は、白田君の辞表をもつて行くのをついて行つて本室へ行き、かはりの女の子をたのみ、そのついでに先に神田の伊藤書店へ（白田君が森井さんの所へ昼食に寄つてゐる間に）寄り、神田から常盤橋まで都電で焼けあとを見ました。

震災のあとのやうです。それにしても石造りやコンクリート造りはちゃんと残つてゐます。尤も千代田ホテルはガラスがすつかり割れて、窓々から、やけどげたふとんを干してゐました。残つた建物では人が事務をとつており、あちらこちらのやけどを警防団や学生がとりかたづけしてゐました。日本橋の方は、電車通りの裏手が焼けのはらです。

帰りに銀座資生堂の正木さんの展覧会へ寄りました。白田君もついで来ました。正木さんは例の事件の第一審不首尾にもかかはらず、いつにかはらず元気で、検事訴とか何とかで大審院へもつて行くことになつた、「ありやおかしいんだよ。あんな君、判決ないよ」と、絵のことなんかそつちのけでいきまいてゐました。おかげで絵のお世辞を云ふ必要なくてたすかつた。それから日本映画社へ寄つて、いねちゃんに白田君を紹介し、いねちゃんと打ちあはせ、それから白田君は誰かに報告に行くし、僕は青山の山陽堂に寄つて本を買つて帰りました。

白田君の工場行きはやや唐突でした。森井さんの持つて来たも、ちよつとあの頃の人らしく僕には疑問だつた。だから此の日、本室へ行くまでの電車の中でただしてみたのですが、やつぱり彼女にも唐突すぎたらしい。寿岳氏のことの解決以来、何かもつと忙しいごまかせない環境で、筋肉労働でも何でも力一杯の生活をやりたい、一生の仕事をつかみたいとは思つてゐたらしいが、それに僕が間もなく信州へ行つて了へば谷川君や西井君のゐるこんなところにはゐたくないと思つてゐたらしいが、直接には森井さんが早い返事が必要としたから、思ひ切つて応じたいのです。そして一旦さうと決めると、新しい生活への期待にはり切つて、凄くいいのいい大きな字の辞表を書いてもつて来ました。本室で中尾課長は考へなはせとしきりに云つてるし、彼女大分困つて、兄が死んで母が帰れと云つてるんだとか何とか、

余り理由にもならんことを云つてゐるので、僕がたすけ船を出して、かはりの人のことを頼んだりしたものです。それに本室へ行く前に森井さんの所へ寄せたのは、具体的な条件をきいてその上でどつちともきめる余猶あやうぢを残したのですが、森井さんの所でまだはつきりした具体的条件がわかつてゐなかつたので、仕方がないからそのまま辞表を出したのです。

僕は彼女はまだ工場へ行くのは必然的ぢやないと思つたし（谷川君や西井君に対する態度がまた／＼神経的で「女の子」的で頼りない）、もつと話しておく必要もあつたと思つたが、一旦きめた以上は、その方向にしりごみしたりさせないやうに、元気づけるべきだと思つて、せいぜい心がまへの忠告をしておきました。仕事の内容には期待をもたないこと、それよりも人間関係の実体をよく見ること、働く人間の欲求を洞察すること、働く人間を規制してゐる諸関係をあやまたずに見ること、生活の保証されてゐる自分の地位を、特権を、負ひ目と思つて意識すること、物めづらしさ、エキゾチズムを持つてはならないこと、等々々々。

五日の夜、いねちやんの下宿のこともあつて、森井さんや臼田君のゐる向日荘をたづねました。豪徳寺から七、八分で、割合ひわかり易い。三十か四十部屋があつて、よくあるアパートです。いねちやんのかりられるやうな部屋は階下にあるさうで、アパートの主人はゐなかつたが、大丈夫かりられます。二食つき。森井さんはちよつと不二ちゃんの昔の部屋を思ひ出させるやうな感じにして住んでゐます。ちよつと彼女の恋人が来たので、僕は二階の臼田君と小田中と云ふ彼女の先輩との共同生活の部屋へうつりました。尤もその恋人を僕は見ませんでした。恋人と云ふのは臼田君の説で、恋人なのかどうかわからないのですが。臼田君の部屋は余りきれいでない。間もなく森井さんも来ました。

やつぱり中島君と森井さんとはリーベだつたのですね。同じ仕事をしてゐた外の人達が、二人はどうして結婚しないのだと云ふほどだつたのださうです。ところが中島君からも森井さんからもはつきり意志表示しない中に、森井さんはどうでも自分の家にゐられない気持で、何とか解放されたくて、菊井とか云ふやはり元の仕事の関係者の求婚（彼女の方でも恋愛感情を抱いてゐた）に応じて結婚したのださうです。まだ彼女のはなしは抽象的で、彼女と中島君との関係も、菊井と云ふ人のことも、僕にははつきりとはわからないが、今日はまあ、彼女の語る以上をつつこんできかないでおきました。その菊井と云ふ人との生活が始るとすぐ二ヶ月で病氣にもなるし、結婚とはこんなものかと驚いたさうです（この辺すべて抽象的）。それでも彼（菊井）の政治的意見やその他に信頼してゐたし、矛盾を感じてはゐても、別れるなどの問題にはならなかつた。中島君は彼を見て「タイラントだね」と云つたさうですが、彼女のしたい放題（尤も病

気だつたから、せいぜい中島君との文通ぐらいでせう)をさせたとも云つてゐます。所が中島君が死んだ時、彼女は一切を失つた感じがして、まるでどうしていいかわからないほどで、之が恋愛だつたのだと知つたのださうです。それを知ると共に現在の夫婦関係の矛盾が決定的なものに感じられ、彼の政治的意見に対する不満も表面化して、(とうとう)決裂になつたのださうです。彼女がいつか「政治の問題だ」と云つたのは、「世界観の問題だ」と云つた方がよくわかるし、事態をよく云ひあらはしてゐたのです。

そこで僕の「愛情理論」になつたが、彼女は僕の云ふことがよくわかると云ひながら、どうも言葉でぴつたりしないと云ひ、僕には彼女の云ふことがよくわからない。彼女は、僕が意識の必要を云つたら「苦しい」と云ふ。「道がそこに見えるのに、自然な道が見えるのに、その野や林へ釘をうつて別の道をつくり上げようとしてゐる」と僕に云ふのです。「自然な道は行きつまつてゐるんだ。自然の道の行きつけない所へ人間が道をつくるのだ、意識を以て。自然の道は動物どもの道だ。はつきりした行く先の石ころやわき道の多い道だ。人間はコンクリートの大道をつくる。どこまでも行ける道、たしかな道をつくるんぢやないかしら」と云つたら、「それぢやあたしは人間ぢやないんだわ」と云つたり、「やつぱりその比論は適切ぢやない。まだ自分でも云ひあらはせない」とも云ひます。白田君はきいてゐて、「森井さんは、菊池さんのおつしやることをしてゐらつしやらないんぢやないんだけれど、菊池さんのやうに論理的にいつかりとつかまへてゐるんでないだけなのぢやないかしら」と云ふ。白田君と森井さんとはよく話を通じ、それから僕と白田君とが話を通じる。何だか自分でもわけがわからなくなつて、もう一度やりなほしすることにしました。今度は彼女も具体的にはなしてくれる筈です。二人とも僕がせつちかすぎるとも云ふ。白田君は「森井さんも考へるのに時間がかかるんだから、待つてあげなさいよ。あたしだつて、あなたの話は初めの頃は大部分吸収出来ないのでありましたわ。それがだん／＼わかつて来て、此の頃では吸収する方が多くなつたわ。今頃になつて時々、以前に菊池さんのおつしやつたことで、その時わからなかつたことがわかる、と云ふことがあるんですもの」と云ふ。「そんなむつかしいこと云つてゐるんぢやないんだけど。愛情の唯物論的理解と云ふことは、僕等が始終いろんな人間関係の中にあるんだから、正しいか否かすぐわかるし、正しければ外の理論を否定して、この理論でやつて行けば、きつとやつて行けると思ふんだがなあ」。

僕は前に、歴史学の領域での経済史観と歴史主義とがあつて、之が論敵だと云つたでせう。それは哲学では俗流的唯物論とドイツ的観念論との二つ、または新カント主義とマツハ主義とになり、芸術では芸術社会学派(功利的芸術論、卑

俗な人生主義芸術」と芸術至上主義との対立になる。ところが恋愛の問題では、恋愛至上主義乃至神秘的恋愛観と、俗流浅薄恋愛観とがある。歴史学や哲学での主な論敵は、我々と共通の言葉を用ひる経済史観や俗流唯物論だが、芸術や恋愛になると、反対に芸術至上主義や神秘的恋愛主義が主な敵になる。僕は森井さんに、まだその神秘的なものにほひをどうも感じるのです。白田君もさう云ひます。それから森井さんの観念にはまだく、静止的な、ものを運動に於てとらへないものが相当ある。例へば、以下は推察ですが、森井さんにとって中島君が余り理想的であるため、むしろ余り理想化されてゐるため、外の人間関係についてやや自由を欠くのではなからうか。まあ、いろんな問題に論敵をもつことはいいことです。それにしても森井さんは、たしかに中島君の影響が実に強い。中島君の欠点の影響も。

次には竹中君の問題。之は昨六日、本室へ行つた時一緒に夕食もしながら話したことです。彼には恋愛があつたのです。第一の恋愛は彼としても一番熱心だつたらしいが、元の会社の女の人で、竹中君の両親も賛成してゐたんださうですが、どたん場で、その会社の彼等の課長で彼等の崇拜的だつた人の二号になつてしまつたんださうです。しかも彼女は、その課長と一緒になれなければ死にたいと云ふほどだつたさうで、課長も妻子と別れるからと云つて家をもたせたんださうだが、二年経つのにまで別れず、結局二号のままださうです。竹中君はそれに失敗してから、一年半ばかり前からやはり同じ会社の女の子とつきあひ始め、それも恋愛にまで進んだのださうですが、之は彼女の母親が、次女である彼女よりも姉の方を結婚させたがり、若し次女が先に結婚するなら親を見てほしいと云ふので、つとより早く云ふとむこ入りしてほしいと云ふので暗礁にのり上げて了つた。その後人が立つて相手の母(父はなし)にやつと承諾はさせたが、今度は彼女の方が動揺し出して、とうとう和歌山へ疎開して了つたのださうです。それはこの間の空襲以後のことです。「そんなら何故僕に云はなかつたんだ。うまく行くか行かぬかわからないにしても、僕がもう一度はなしてあげたのに」と残念がつてもあとのまつり。尤もこの第二の恋愛は、第一のよりは稀薄だつたらしい。

そして第三のものになる可能性のあつたのがA君で、之も駄目。そのA君がもつて来た話に今はやむなくまかせてゐるのださうです。いろくきいてみると可哀さうで、何とかしてやりたいと思ふがどうにもならない。今度の結婚をやめさせることも、いろく云つてもいろんな失望で、自分で自分の気持のインシアティヴをとれなくなつてゐて、駄目のやうです。彼はしきりに云ふ。「君の理論は正しいよ。僕は第一のリーベでも、それを感じるし、第二のそれでも感じたんだ。けどしようがなかつたんだよ。僕の方で相当積極的に云つただけどね、相手がぐらくくするんだもの」「い

くつたね、相手は」「二十一さ」。僕は島谷君を思ひ出しました。彼のあの不幸な結婚を。でもまだ問題は決定してゐま

せん。

クリユタイムネストラについてはまだ問題があるけれど、土曜日の午前までに書きあげねばならない原稿（戦争史）があるので、土曜の午後にまた書きませう。

それはさうとして、本当に身体に注意して下さい。

大分冷えるやうになりました。

幸子から謙一あて（一九四四年十二月七日の記・消印）

十二月七日

御手紙33、34、共に十二月三日附、六日に落手致しました。三日の空襲、あなたの方被害ない由、安心致しました。本当にBさんの訪問も定期便になりましたね。今日の未明、警報が出ましたから、又々帝都空襲であらうと思ひ乍ら、其のまゝ睡りました。今朝のはどうだつたでせう。

東京も段々焼野原になつてゆき相です。この辺の気の早い連中は、東京は遷都する、何処へと云ふと松本だ、理由は気流の關係で一番安全なのは松本だから、そうして日本の最中部に当るから、と云つて話してゐます。

今日はお婆アさんの一週忌で、午後から長久寺さんがお経を読みに来るし、深三郎一家がやつて来る事になつてゐます。早いような長かつた様な一年でした。昨年の八日朝、まつ暗い霧雨の中を、あなたに途中まで送つて貰つて新宿を立つて来ました。八日でしたから、汽車の中でも、電車の中でも、車内常会をやらされました。考へると、あの時の方が今日より寒かつた様です。それはこちらの冬の寒さに今年慣れたばかりでなく、記憶では庭の木の有様ももつと冬枯てました。終日、松川の河原風が硝子戸を揺すり、わびしい様子でした。早苗もあの時はフーチャンにねんねこで負ぶさつてゐましたから、少さかつた訳ね。あの時、何を食べたか忘れたけど、今日よりは食べものもあつた様です。

今日も凄しい風、ヒューヒューヒュル／＼と電線に風が鳴るし、どこかしらすきまを見つけて風がはいつて来ます。今朝もねぐるしく早く目を覚し暗い中に起きました。桃ちゃん「お姉さん、睡り乍ら歌を唄つてるの。何の歌つて云ふとね、ソルページソルページの歌をさ／＼悲しさうに細い声で全部歌つてたわ」と云つてゐました。まだねむり乍ら歌をうたふ癖が残つてたのね。

いろいろすませて、お炬燵（二階の）で手紙かきと云ふところです。今朝は起きたすぐは嫌な気持だったけど、もうすつかり良くなり、近頃珍らしく掃除も積極的に出来ました。此の調子で、もうさつぱりしてくれたらうれしいのに、もう二、三ヶ月はこんな様子が続く事です。其の中勉強どころでなくなるかも知れないと思ふと、やや焦る気持も致しますが、子供がゐる方が本心から勉強を求める気持になれると思つてゐます。

昨夜、ぬる前に一寸と思つて、下のお炬燵で暖り乍ら、ひよつとしたかげんから田舎医者の話が出ました。フーチャンが「田舎医者つて、まだよんで見ないけれど、安田徳太郎さんのような身体の貧弱なケチヨ／＼の男で、其の癖、雄弁に大ぼらを吹く男ぢやないの」と云つた事から、とう／＼田舎医者の話を全部大体話しました。バルサクがあの小説の中に盛りこんだ宗教や、社会改革の理想や、政治思想の精しい事は話せませんでした。ブナシスがどの様な転起から田舎の無知と貧困と、進歩のないほろびゆく農民たちを経済的に立ち直らせ、生産のよろこびを与へ、村中こぞつて経済的文化的に立ち直り、健康な社会を作り始めたか、――まづ其の始めの柳の筆作り、道路修繕、クレチン病との斗ひ、ブナシスとジュネタスの馬の散歩で、村中をまはつて二つの葬式を見たり、ナポレオンの旧部下の二人の兵士の話など、それからジュネタスの訪問の話、ブナシスの死、――ばん始めは、あの小説の出だしをそのまゝ、ある春の朝、軍人が馬で浪合みたいな川をはさんだ峡谷にあらはれるところから話しました。さうしたらお母さんは、ゐねむりしかかつてゐたくせにピンと耳を立てて、夢中になつて終まで、ところどころ質問したりし乍らき、終つて、西洋にもそんな面白い小説があるのかね。一体何処の国の人が作つたの」ときくので、フランスのバルザックだと云つて、それからかんとんにバルザックの話をしました。いろんな面白い長編があるんだと云つたら、又あしたの晩、何か一つ話せと云ふ注文でした。「外国人は悲観しても、唯悲観しはなしぢやないからエライ。悲観からそれ丈の立派な行ひをするとは実にエライもんだ。なゝる程ね」なんて感想を洩してゐました。

喋つてゐる中に、ブナシスのやつた事は小規模乍ら、ローズベルトのニューデイル三ツのRを完全に行つたのぢやないか、と思はれました。プーア・ホワイトの如き存在の無知と怠惰と積極性のなさ、貧困、ペラグラ病に対比するクレチン病（クレチン病も日光不足と栄養不良が原因ね）、それらから彼等を救ふでせう。生産手段を与へ、生産のよろこびを与へ、除々にちぢこまつた心に積極性を与へ、生活するよろこびを与へ、遂に村中みつばちのブン／＼云ふような、にぎやかな人間の生産のよろこばしい物音で充すでせう。あの村に南部のプランターの如き悪質の存在のなかつた事は実によろこばしい事ですね。でも話してゐる中、オヤ、私は田舎医師を良く読んでゐたかしら。どうもこんなかんたん

な事ぢやなかつた様だなど思ひ起しました。話してゐる中に、何とか云ふナポレオンの旧部下のあの村の住人（橋を作つた方でない）の語るナポレオン話ね、あれを思い出したら、どんな風だつたか忘れたけど、彼の話すナポレオンは落語の熊さんの語るエライ人や、学者の話にある通りだなアと思ひました。とに角神がかり的な存在で、どこなくユーモラスで、辻つまが合はなくて、おかしい中にある種の真実のこもつてゐる点―ジヨネタスの皇帝の思い出より郵便屋の語るナポレオンの方が、真実の面があるように思へました。

風と共にの批評をほめて下さつて有難う。あまりほめて下さると、返つて不安になります。これもプランティシヨンのおかげでせう。

竹中さんの結婚の話はAさんの骨折りなんです。結婚してみたら、とてもいいものよ。あなたも早く結婚なさい”の中なのね。話できてゐるAさんで、竹中さんが惹かれる何物もないように見えて、あなたの云ふ通り、実は惹かれるんですね。多少は解るけれど、でも彼女の影響がそんなに強くひびくのかしら。戦争前の社会では―あのいやらしいハイトイ的な流行歌の当時は―そんな事もあり得るけれど―、今は不思議なきがします。兵隊になつた事が一番わるいシヨックになつたのですね。

問題劇について面白く思ひますが、これはもう暫く考へてみなくてはと思つてゐるところです。其中、この事は感想かきませう。

ここまで書いて、呼ばれて下へゆきました。くるみ割を十二時まで。前に小此木さんで出したくるみは西洋ぐるみ（かしぐるみ）ですから割りよいけれど、うちのはさわぐるみとか云ふのでとても／＼割りにくい。一斤ます一杯割るのに40分、実を引き出すのに一時間もかかりました。足が氷のように冷め度くなつたので逃げ出しました。

今日はこれが皮切りで一日ごたつく事でせう。叔父さん一家が来ると、お母さんはきまつていきり立つた馬のようになるにきまつてゐるし嫌です。何もあんなにコーフンしなくてもいいぢやないかと思へるけれど、自分でもどうにも感情の整理がつかず、自分で煽るところがあるので。まはりは大迷惑な事です。

此の隣組に東京から妻子が疎解して来た、わし見さんと云ふ人がゐて、今日は旦那さんが来てゐます。旦那さんは万年筆のペン先の修繕をやるんだとかで、今、あなたが九月に来た時とりかへて行つた左へかしいだペンを、なをして貰ふ様に頼みました。神戸で買った速記用もすりへつて来たし、書く度に不便だと思つて居たので、あのペンがうまく修繕出来たら有難いです。

くるみの実をひき出し乍ら三ツ四ツつまんだせい(る)か、とてもむか／＼して来ました。あれは南京豆と同じようにしつこいから毒なのね。あなたは南京豆やくるみ好きでせう。よく頭が痛くならないと不思議に思ふ位食べるのね。今度粉を送る時、すこし一緒に入れてあげませう。むしパンやおやきにいれると丁度よいでせうね。

国益社の判、いくらだつたかとか何時ごろだつたかとか、要領のわるい事を云つてゐてらちがあきませんから、近々気持の良い日に飯田に行つて、よく云つて来ます。十一月の四日か五日でしたね。値段は六円いくらと云つてゐたようだったけど、精しい事をもう一度知らせして下さい。別に受取は呉れなかつたんですね。国益社は仕事がのろくてゝずな店(ぢや)ださうです。少さくても北沢印房の方がたしかで、家では北沢ばかりで、北沢ならまちがひないとのこと。でも今更しよう(ぢや)がありませんけれど。プランテーションがおくれるなら、判も少々おくれでもいいでせう。私が飯田へ行つたらキチンと期日を切つてきめて来ますから。

今日はもつといろいろ書くつもりでしたが、どうもむかむかして来ます。又、夕方にでも書きますね。お風邪を引かぬように。

幸子

幸子から謙一あて(一九四四年二月七、八日の記、八日の消印)

一週忌(忌)よう／＼終りました。案外かん単に。

坊さんも此の頃はあまりユウ／＼とお経はよまぬものらしい。電車の時間にあはせて超スピード、それからお(赤カ)飯だのお煮(カ)を食べて帰りました。叔父さんのところからは長女のミーナ一人出席なので、いろいろの心配もキユウに終つて、ほつと一安心致しました。

今使つてゐるペンがさつきな(ほ)をして貰つたペン、割合書きよくなりました。

今日二時頃、相当激しい地震があつて、二階では額(かぶ)がはずれるし、廊下の障子は二枚はずれ、硝子戸は二寸位づつ開き、時計がとんで来る、道路の前の羽生さんの家では壁が落ちて、小川の中に崩れこみました。

十二月八日

昨夜は南部の工業のノオトをやりかけたら警報で、標準の暗さにしても明るいく／＼と外からどなられるので、遂に灯を

消しました。とうとう^(たうとう)仕方なく、暗やみの中でお喋りをして、九時前には床にはいりました。今朝は六時に起きて掃除をすまし、朝食後、株菜洗ひ四把しました。一把^①五貫ですから相当かかります。まだ半分残つてゐますが、足も手も凍えるので中止、午後から又始めます。

五日附のお手紙、昨午後五時ころつきました。空襲では絶体死なないとのこと、稲ちゃんも同じ様な事を云つてゐますわ。当時者^②よりも外にゐるものが、どんな事でも同様、余計な不安を感じるものらしいですね。それではそのまゝ信じて、あまり心配しないようにしませう。あなたの痔は困つたものですね。夜、あん火を作つて暖めたらどうでせう。空襲で地下室に長くはいると又、余計わるくするかも知れませんが、前以つてすこしでも良くして置かなくてはいけません。結局杉林の冷えも、全体の体力の弱りが決定的なものでしたのでせう。栄養不足のせい^③ですね。配給の魚はどうですか。肉もめつたないのでせう。此の辺も肴は一寸も姿を見せません。前の肴屋で時々匂がするけど。

昨日、教次さんからお父さん宛の手紙で、召集が来て十四日に横須賀海兵団に入団すると云つて来ました。望みをかけた子供は死ぬし、召集は来るし、教次さんも続けさまですね。みつちゃんは当分京免さんのところに残る相です。面会その他、近い方が便利でせう。みつちゃんも急に心細くなつて、きの毒です。家ではこれで見つちゃんも、すこし大人になるだらう、と云つてゐます。

私の例の方は確実です。今度は身心共に不安はないし、万事よくゆく予想があります。すこし年令的におそいとも思へますが、これ以上おそくては困ります。唯、多少気にかかるのは身体の弱い子であつては困るのですが、それも育て方に依ると思ふし、お産に対する不安も恐れも心配も、今度は全然ありませんから、大変気持は楽です。さうして、とても楽しみです。

あなたの手紙、対話ばかりで詰らないだらうとの御心配は御無用。大変にいい企だとよろこんでゐます。いろいろ考へるところもあり、其の日の内容によつて、いろいろ後まで考へてみる事が出来るので、こんな風な生活で、きまつた話題で、きまつた内容、既に何度も出て来る、考へる余地もない内容ばかりに接してゐるので、あなたの手紙で、あなたの感じる事を私も又感じ、あなたの話す事を私も又話す結果になつて、あなたの日々の手紙は私の生活になつてゆきます。

竹中さんとの結婚の話の進行状態と、其の進行に伴ふ批判、分析は、小説よりもずっと身近で、考へなくてはならぬ多くを含んでゐます。そして臼田さんの事も、竹中さんに感じるまどろこしさ、いらだたしさと異つて、健康な明るさを

もたらしませぬ。二人丈を比較して云ふのはまちがひになるかも知れませんが、男と女の相違もそこに感じられる様に思はれて来ます。女の方が単純な丈に偏見を捨てても早いのだらうか、女の方が男より現実にと直面するチャンスが多いのだらうかと、いろいろ。臼田さんに先づ積極性のあつた事が第一です。そして吾から眞実を求める心持のあつた事です。そしてこれこそ思ふものに突進したいと願つてゐたからです。だからあなたの云ふ事もひたむきにきき、とり入れたのでせう。そして臼田さんはそれを擱んだのでせう。寿岳氏とのいきさつも新しい見解で眺めて、満足するように解決出来たのでせう。あの事件も臼田さんの考へ方をより積極的のうち立てる有力な力となつたのでせう。森井さんを追ひ越した様です。

臼田さんが挺身隊にはいるいきさつの問答、突然の様で実は突然ぢやないのね。あなたと一緒に仕事なら、やりがひあると思つて出来ても、谷川さん、西井さんとは、あのひとは仕事のかひを感じないのは当然だし、本当に一寸見た丈だけ、あそこの仕事全体、女の人にとつてはあきたらないでせう。助手の仕事だつていい仕事ならだけど、唯の男の人の走り使ひや掃除だけで、半分甘やかされ、半分貶しめられてゐる仕事なんて、満足出来る筈がありませんものね。今、新しい考へ方を擱んだ時、森井さんからの話は棚ぼた程、うまい具合に来たものでせう。どのような仕事につくか知りませんが、自主性と責任を持たねばならぬ仕事でせう。寿岳氏とのいきさつの後の彼女こそ、とキタイした丈の事がありますね。テイ進隊(挺身)と云ふと妙に束縛的で嫌なものに感じられますが、いくら自分が選んだ仕事だつて、自分の満足のいくような仕事に現在つけるわけのものではないし、仕事それ自身、女の場合は、仕事でなくて給仕兼みたいな創意性も自主性も出せない仕事が多いのですから―そして一寸見はいい様に見え乍ら内容は至極つまらない―のだから、むしろ挺身隊の生産的な仕事に時間も体力もたつぷり働いた方が、どれ位勉強になるかわかりませぬ。唯残念な事は、もう半年位もあなたの仕事をして、もうすこし長成出来たらと思はれる事です。よう／＼歩き始め、自信もついたとは云へ、まだ多少の不安なきを得ませぬ。何処の工場へはいるのか知りませんが、時々あそびに来るようにして、チヨイ／＼話をきいてあげたり、力強いゲキレイを与へてあげる事です。臼田さんの短時日のすばらしい成長は近頃ないうれしい事です。竹中さんのモヤ／＼も消されるではありませんか。

其の後は古田嬢はどう？ あの子はまだあまりに子供でだめぢやないかしら。あの子へのキタイは長年月を要しますね。結局あの子はおさしみのツマの如き存在だつたのね。

今日はとても静な小春日和、硝子戸を開いて伊那山脈を眺め乍ら手紙を書いてゐます。上の方は紫がかつた青、わき腹

には雪の谷、下の方は赤茶いろの雑木に陽が当つて、空の遠くで爆音がする。

昨日午後、コルネイユ「ルシッド」をよみました。よみにくいのね。何だか方々ギス／＼してゐて、内容も嫌気がさして来ます。相愛の男も女も、口達者に多弁のくせに、ウソにウソを重ねては正義々の合言葉でごまかし乍ら、そのくせ誰か本心を知つて、自分の思ふ様に面子をきづつけずに、ハッピーエンドにしてくれればいいと願つてゐて、まはりの侍女だの王様だのがチャホヤ甘やかしていい気になつてゐるので、＼そんなら勝手にしな＼と云ひたくなつて来ます。自分で積極的に解決しないで、他力で片づく事を願つてゐる態度は実にあさましい。殊にシメエヌと云ふ女が激しい。此のドラマ、覚えてゐますか？シメエヌとロドリグは恋仲、二人の父は嫉妬からブジョクし合ひ、ロドリクは父の仇をうつためシメエヌの父を殺す。恋人を失ふ事を恐れ乍ら、父に孝子でありたいので、シメエヌはロドリグを仇と呼んで殺す事を王にしつこく願ふ。ドン・サンシユと云ふシメエヌに恋する侍が、シメエヌに代つてロドリグとはし合ひ、勝つた方にシメエヌは妻となる事を宣言、ロドリグはシメエヌに、此の上はあなたに殺らされるのだと思つて手むかひせず、サンシユに討たれようと云ふ。シメエヌは又、それは私の名よを恥かしのめるとかさわぐ。とどのつまりロドリグが勝つと、父の敵と結婚は出来ぬとタダをこね、王様がお前は勝負の引出もの云々云ふ事は出来ないと言つてくれて、面子を保つてロドリグと結婚する話です。親子の義理、仇うちの観念の肯定されてゐた時代、あゝ云ふ芝居をしなくて、愛する者と一緒になれぬのかも知れませんが、何にしてもシメエヌがあまりに多弁でペチャ／＼正義呼ばはり、小面にくくなつて来ます。さうして其のために自分に恋する男の純情を利用して、彼（サンシユ）の死をもつて自分の面子を買ひ、巧みに自分の恋を完成しようとたくらむ（尤もサンシユもかひしようのないまぬけ男ですから、あたり前かも知れません）。

当時のコルネイユ劇を求めた人々は、あの様に辛い義理人情を巧みに処理しつゝ、メンツもこはさず愛情を守つたシメエヌに同情したのでせうか。それとも親と子の義理と仇うちの内容を否定したかつたのでせうか。かんたんに云へば、あまりにシチャモチヤしすぎるから腹立しいドラマでありました。

これ又愛情の問題劇ですかしら。ロミオとジュリエットの方が同じ様な立場にゐて、もつと／＼卒直に、合理的だつたようです。あのロレンゾ法師様の方がルシッドの王様より賢明だつた。何故ならロレンゾ法師は愛情の倫理を知つて、力落すロミオをゲケレイし、ロミオに新らしい考へ方と力を与へた。ルシッドの王様は唯、王の権威で片つけてしまつた。終りはルシッドはハッピーエンドであつて、ロミオたちは二人とも死んでしまつた。けれど、あのドラマを見た者

は、ロレンゾオがロミオに与へた恋の倫理を、自分たちも又貫つた。ルシツドは王様の権威と云ふグーゼンがなくては、此の恋も完成しないと思ふだらう、等々一寸感じました。

和歌山の京子さんから手紙で、みかんがすばらしくおいしいから来いとの事。みかんは食べたのですが（本当に此のごろ御飯は一寸もほしくなくて、果物がほしくてたまりませんの）、空襲にあふのは恐い。で、結局やめますわ。ひろちゃんのみかんを送つてくれるといいんだけど。お金を送つたのんでみませうか。むづかしいでせうが一箱位何とか出来るでせうね。さうしてもよかつたら、ひろちゃんの有田の住所知らして下さい。

では今日はこれですようなら。

幸子

白田さんによろしく。はげましの言葉を云つてあげて下さい。森井さんにもよろしく。

謙一から幸子あて（一九四四年二月八〜九日の記）

十二月八日（金）曇

今日は来るかと大分警戒嚴重だつたせい（る）か、来ませんでしたね。だが昨夜と云ひ今暁と云ひ、向ふは神経戦でやつて来ます。

それにしても昨日の地震のすごさ。丁度おひるで、今日あたり来るかと上ばかり気にしてゐたら、下から来たので驚いた。ここは屋根は瓦でなくて軽いから、地震には先づ大丈夫です。だから僕は落ちついてゐた。庭のすみのプールはえらい波がおこつて、ザンブザンブとあふれ出ましたし、ずい分長い間、まるで頭が痛くなりでもしたかのやうな揺れで、「これはどこかはえらいことになつてゐるぜ。三陸か紀州か、とにかく大分遠い所が震源なんだらう。すごい〜」と暫く誰も不安さうな表情を去り得ませんでした。

今朝もゆれましたね。この家は耐震家屋として建てたものださうです。その点いいが、銅の屋根だから今に献納ではがされるかもしれないし、また高射砲弾のかげらなどは、瓦の屋根の方が貫通しにくいでせう。

昨日のお手紙のエレクトラのこと。たしかにソフォオクレスの「エレクトラ」はアイスキロスのそれに比べて、政治的モチーフから遊離し、歴史的運動、モラルの交替の運動と云ふことと結びついてゐませんね。一種の性格劇の要素が多い。

その意味ではソフオクレスの方がアイスキロスより、わかりやすく、現代的可能かもしれない。もつと現代的是なのはユーリピデス(ユリピデス)の問題劇的(問題劇的)な、社会劇的(社会劇的)な作品ですね。ところがまさにその現代的であることに欠陥がある。そのことをあなた(あなた)は指適(指適)してゐるので。すなはちソフオクレスがアイスキロスのやうに、エレクトラを歴史の時代の歴史的运动(歴史的运动)の中でとらへ得なかつた、さう云ふものから切りはなして性格創出(性格創出)的にあらはした、そのことがエレクトラの形象を一面はつきりと浮き出させ、他の半面却つてあいまいにしてつたのでせう。性格劇(性格劇)はドラマとしてはたしかに進歩であるが、内容的にはむしろ弱いものになつてゐる。エレクトラ劇のアイスキロスとソフオクレスとの比較は実に有益(有益)です。本当のエレクトラ劇は、やはりアイスキロスの時代であるべきなのです。尤もソフオクレスの時代には、アガメン(アガメン)ンやエギストス、クリュタイメネストラ、エレクトラ、オレステスの政治的意味は、アイスキロス等によつて既に定立(定立)されてゐて、わざわざ説明する必要がなかつたと云ふことも考へられる。だからソフオクレスに於ては、同じ題材の、アイスキロスのこのこした部分、即ち性格劇的掘り下げが必然的(必然的)だつたのかも知れませんか。にも拘らず、政治的モメントはもつとはつきりと個性的形象と結びつかねばならなかつた。マル・エンがアイスキロスを特に好んだのも、尤もだと思ひます。所でエレクトラについてですが、妻たるクリュタイメネストラが夫であるアガメン(アガメン)ンを殺すことの悪と、子たるオレステスが親たるクリュタイメネストラを殺す悪との比較は、アイスキロスによつてはつきり解決されてゐる。即ち、第一の悪の方が第二の悪より大なのです。それが新しいモラル、父系制社会のモラルなのです。そして今から見ると父系制モラルが母系制モラル(母系制モラル)にうちかつたのは、男が女にうちかつやうに簡単に見えるのに、実際はあのオレステスが母系時代の神であるエリュウニウス(エリュウニウス)達にあんなに苦しめられ、新しい時代の神であるアポロとアテナとによつて、アテナの市民陪審官の票決(票決)が六対六と云ふ風な息づまるやうな「たたかひ」の後に定立(定立)されたのです。エリュウニウスは、オレステスの中の旧道徳(旧道徳)の感覺であり、「良心」なのです。この新しいモラルの古きモラルへのたたかひが、アイギストスの篡奪(篡奪)政者の打倒と云ふ政治的モメントと一体になつたところに、アイスキロスのエレクトラ劇の偉大さがある。父系制モラルとは、「母の腹は借りもの」と云ふモラルで、之は封建時代までつづいた甚だ不合理なモラルだけれど、ギリシヤ時代は、このモラルこそ新しく、歴史的に進んだモラルだったので。それは私有財産の発生が、一切の悪の根源であるにも拘らず、しかも生産力の発達の成果であり且つ生産力発達の刺戟(刺戟)であつて、歴史の進歩のために必然的であつたことと照応(照応)します。母系制時代のモラルとは、子供の父親がわからないと云ふモラルで、之は氏族社会(氏族社会)のモラルでしたが、氏族社会は発達(発達)し行く社会に適應しなくなつて、族長社会(族長社会) (家長制社会) 奴隸制社会へと轉移して行かねばならな

かつたのです。

またアガメンノン¹は、現代の見地から見れば甚だけしからん男にちがひないが、当時としては民族の首長として立派な王者だつたのです。彼はヘレンの為にトロヤへ行つたではありません。ギリシヤ民族全体の此の時代の民族運動（掠奪や奴隸獲得や商業と云ふ形の）の代表者だつたのです。だからこそギリシヤの凡ゆる民族がわざ／＼トロヤまで戦ひに行つたのです。当時の戦争を現代的な眼で見てもいけない。彼が女奴隸をつれて帰つたり、ぶんどり品をとるのも、当時のモラルとしてあたりまへです。イフゲーニーを捧げたのも当時のモラルで承認されてゐた。にも拘らず、そのモラル自身の非人間性が、クリュネによるアガメンノンの否定と云ふ結果を生じたのです。その意味でアガメンノンの否定には、アガメンノン・モラルの否定があらはれて来てゐる。だがアガメンノンを否定したそのもの自身もまた否定されねばならなかつた。アガメンノンが王者であり乍ら、従つて当時のモラルの代表者でありながら、アキレスのモラルによつて既にイリアスに於て否定された。あなたはアガメンノンを現代の横暴男性の典型にすることによつて、歴史的なものの見方を忘れてゐる。アガメンノンはリヤ王のやうなもので、否定されねばならなかつたとは云へ、偉大だつたのです。アイギストスやイヤゴース式の王よりは偉大だつたのです。だからこそ悲劇なのです。

エレクトラの母へのくしみを嫉妬であると見たのは、十九世紀後半のエレクトラ解釈です。ソフォクレスにはたしかにさう見られる要素がある。だがやはりエレクトラのさう云ふ解釈は、フロイドの心理主義であつて、エレクトラのモラルを見逃すことになる。そして評価すべきはエレクトラのモラルなのです。どうもこのあなたのお手紙は、少しヒステリックな調子があつて、此の頃のあなたの歴史理解力にそぐはないやうに感じます。物を、特に歴史的なものを、現代的感情で見ることは、卑俗な現代主義で、ルカッチはその欠点をはつきり指適してゐたでせう。エレクトラはそれくらいにしませう。

今日は大分物々しく警戒して、昨日の午後二時から隣組廻状がまわつて、自宅にゐるやうにと云つて来たくらいです。向ふも中々正攻法で、警戒してゐるに違ひない日は、たくみにそらして神経戦ぐらいでごまかし、警戒がゆるむと来るのでせう。伊藤書店の鶴田君は、荻窪から四谷へ疎開すると云ふんです。「四谷へだつて」「さうですよ、四谷左門町へね。焼夷弾は大してこはくない。あれは消せますよ。この間のだつて、消火出来たのに、待避命令で待避をやつた間に手のつけられんことになつちやつたんですよ。それにね、焼けても、どうせ人の家だし、自分のものも何にもないし、女房と二人で生命さへあれば何とでもなりますからね。バクダンはたまりませんよ。命がもたんですよ。日曜日のバク

ゲキはこはかつた。あの日は新宿でサイレンがなつて、あはてて帰つたんですがね、荻窪の駅でおりるととたんに空襲警報で、すぐ待避つて云ふんでせう。道バタの頼りない防空壕へとびこんだらね、もり／＼ぼくだん落ちて来た。防空壕ごとこんなになつてゆれてね、あの時駅の陸橋がやられて、そいで省線が通じなかつたんですよ。線路もまがるしね。それからやみ間にとにかく家へ帰りついたがね、またやつて来る、家中あけ放してふとんをかぶつて庭の防空壕へとびこむ、丁度女房がどつかへ行つてゐて留守だつたんですがね。何しろ右と左とにドカン／＼落ちて、生きた空もなかつたですよ。あとで見たら、二十軒先の所へ二百五十キロが落ちて、四、五軒の家はメチャ／＼。それはいいが三軒隣の家へ不発弾が落ちてね、こいつにはきもをつぶした。あれがバクハツしてたらお陀仏だつたね。その辺の人みんなあをくなつてたからね。日本橋神田の焼夷弾ちや全部で二十人死んだきりだが、荻窪ちや一つの病院で四十人の死骸をはこびこんだすからね。とにかく、あれを二、三回やられたら完全に神経衰弱になるね。こりこりだ」「なるほどね。そんなものかな。それにしても四谷とはね……」。伊藤書店とは小川町の電車通、昭和銀行の丁度向ひ側（オ茶の水側）にあるのですが、その昭和銀行のすぐ裏手の南明座が完全にやけて了つたのですから、危いところだつた。

今日のお手紙（十二月四日夜）と木下半治の黒人問題、どうも有難う。第七節の面白さがわかつていただけでよかつたと思ひます。尤も僕がむりやり面白いと云はせたのかも知れないから、もう一度冷徹に判断して下さい。一番力を入れたい、一番面白かるべきところだが、その苦しみがそのまま果して効果あつたか否かは別ですからね。だから問題なんです。僕が一番書きたい、力のは入つたところが、その力が出てゐないとすればね。

前は第二章まで、問題のある所を書きましたね。第七節などは、信用制度も変な所へは入つたけれど中々重要でせう。バンクヘッド法は、第三章のフェア・レイバー・スタンダード法と共にニューディールが一番重要な法律で、それをスティーヴンスの土地改革法と対比させたあたり、うまく行つたでせう、はつきりわかるでせう。クロツパーユニオンやCIOのことは、余りよくわからないのです。その方面の資料がまるでは入つてゐないので。それに書きにくいところだから、暗示的な程度でがまんしてもらふより仕方がない。

第三章では、標準以下労働の問題へもつて行つたのは、実は書いてゐる中にさうなつたので、結果はちよつと面白いものになつたでせう。ここでも労働問題は書きにくいために、苦しい書きかたをしてゐる。南部の工業の特質（第一節）は、冗長すぎたかもしれません。もつとひきしめて書くことも出来たんだが。南部の工業の資本系統はもつと詳しくわかるといいのだが、あれだけでもよくわかるでせう。

第四章は、シンフォニーのフィナーレにするつもりで出来なかつたが、之は丁度第二章第七節のやうな力の入れかたをしてゐるのです。結語としてさう悪い出来ではないと思つてゐます。投票率を出したりして、大分面^ツ々なことをしたけれど、あれは中々重要です。また南部の民主党第一主義の問題は、やはり書いてゐるうちに出て来たもので、之も僕の方の入れたところでです。帝国主義政治の分析として、アメリカだけでなく世界的に通用出来ると思ひます。意図したやうなフィナーレの絢爛たるところは出せなかつたが、大体各章、各節で結論は示唆して来たのだから、第四章程度の結論でも変ではないでせう。

こんな風に見てみると「ブランテイション」も構成的に、バランスはとれてゐないが、さう脆弱ぢやないですね。

あなたに読んでもらひ乍ら書かなかつたことの失敗、あの時むりにでも読んでもらはなかつたための欠陥の具体的な例があります。あなたは前に第二章第四節の感想で、クロッパ・ユニオンの要求綱領の中の、黒人の子供にも九ヶ月の学校と云ふ要求のあつたことに注目して、思はず涙をこぼしたと云ひましたね。さう書いたお手紙を読んだ時も、実はそれだけのこととしてすごして来たのですが、今日、知識なり学問なり芸術なりは「歴史の武器」であると云ふことについて考へてゐる中に、ふとあのあなたの言葉を思ひ出してはつとしました。さうです、僕は重大なことを書き落した。それは黒人の知識欲、教育への欲求です。奴隸制時代には、奴隸に文字を教へると処罰された。ところが黒人奴隸の知識への渴望は、自由黒人の中の学問などにはあらはれ、地下鉄道組織の斗士^闘ウィリアム・スティルなどは立派な学者にもなれたでせう。南部再建に、黒人の参加した再建政府の第一にやつたことは、黒人を含む普通教育制度の施行です。黒人の知識への欲求は、それが黒人の不幸を解決する武器、黒人の非人間的境遇の根源を知り、之を解決すると云ふ意味の武器、であるからです。彼等にとつて、いや彼等と同じやうな貶黜された民衆にとつて、知識、学問、科学、芸術はなぐさみものや飾りや、居心地のいい地位の保障なんではない、それは彼等のおかれた非合理の現実とたたかひ克服する最大の武器なのです。知識や学問や芸術は、いはば歴史の道を切りひらき、歴史の敵を撃攘する「歴史の武器」でなければならぬ。だからこそ、あの「笑はぬでもなし」で、黒人達が一人の頭のいい少年を学校へ行かせることにあんなに熱心になる。「アンジェロ・ハーンドンの自伝」でも、黒人の大人達の子供の教育に対する関心は異常なくらいです。それほど切実なのです。

それなのに「知識の特権階級人」はそのことをちつとも考へない。彼等は歴史の武器、民衆の武器を金で買ってなぐさみものにし、私物にし、鈍化させ、けがしてゐるのです。それどころかしばしば歴史に対する武器、民衆に対する武器

にする。之等のことをあの所で展開すべきだった。材料はあつたのに。だのにそんな重大な問題を僕は逸したのです。あなたが読みつつそばにゐてくれたら、きつと気づかせてくれてゐたでせうに。今度歴史を書くときにそれを書くつもりですが、とにかく残念でした。こんな風に、まだくいろいろなことを落してゐるかも知れません。伴侶的理解者の必要は、こんな所にもはつきり出てゐるでせう。

十二月九日(土)晴曇

今日も三回サイレンがなりました。第三回目のは(夜)信越地方へ焼夷弾を落したとのことですが、大丈夫かしら。心配になりました。

僕は今日、芦野氏のお呼びで本室へ行きました。朝行つて午後四時帰りました。今度僕は一室を完全にもらへます。それは七畳の部屋で、今西井君のゐる部屋。それが僕の私室になり、ここは事務所。僕の机は元のままで、二畳もタンスもそのまま使ふのですが、結局僕は七畳から十畳へ毎日出勤することになる。庶務課長と相談してかうきまつたのです。昼間の日の当る時は十畳のここゐて、夜は狭い部屋で畳にこたつでもしつらへられます。私室にも机がもらへるので、結局机を二つもつことになる。倉橋君は昔の事件のこと知れたので、交友を監督すると云ふ意味で本室の方へうつきれ(之は僕にだけ洩らされて本人にも云はないやうにと云はれたが、僕は本人に云つておいた。二云ふ方がいい)、この部屋は昼間は僕と西井君と小田中さん(之はまだ当分来ないが)の三人になる。西井君は多少ぶうく云ふかもしれないが。芦野さんの用事は主に倉橋君のこと。

今日、お手紙No.45がついてゐました。五日付です。之へは明日書きませう。

今日は久しぶりにいいおかずです。牛肉とねぎ、いかとかぶらが配給されたので、今夜はいかとかぶらとを煮ました。肉は明日の日曜にたませう。ここ数日は全然おかずなしの日が続いたので、大変おいしかつた。豆もいももなくなくて、粉も少しになつて、米ばかりやたらにあるので、二、三日は塩味のめしとうめばしばかりでしたが、此の頃さう食べたいとも思ひません。どこへ行つても肥つたと云はれます。今日、本室へ行くと「菊池さん一昨日の地震は知つてゐましたか。ひるねしてゐませんでしたか」「菊池さんくらいいきもつたまが太けれや、あんな地震大したことないでせうな」と大分ひやかされました。「此の頃は毎朝律氣にサイレンの度に起きてゐますよ」と弁解しておいたけれど。たつぷりたべてぐうぐうねて、時代メウリ(メウリ)につきてゐると云ふ定評が出来てしまつたやうです。

小包みはわりしなくていいですよ。豆が入つたら、少しでいいから何かのついでに送つて下さい。こちらも小包は列をつくるので、ワイシャツのせんたくなどに送りたいのですが、ぶしようしてゐます。では又明日。

幸子から謙一あて（一九四四年二月九日の記）※

十二月九日晴

今朝未明に又警戒警報が出ました。何時解除になつたのか、此の辺は出る時はサイレンが鳴りますが、あとは伝達なしです。警防団は一人もぬ程、若い人々は出つくしてしまつたので、大事があつても此の村には消防がゐません。近村からの応援で、どうか仕末する有様です。うっかりあなたが此処へ住まうものなら、警防団員やら消防係やら、いろんな男の役目は皆、あなたを目当に集中するかも知れませんよ。万年筆屋の鷺見さんは、妻子を置いて上京しましたが、十二月中にあちらを引上げて来ると云ふので、隣組などで手ぐすね引いてゐる様です。さうは云ふものゝ此の隣組でも製^販所へ行つてゐる男は三人、運送屋一人、トラック運転手一人、郵便屋一人、医者一人、七人の男がゐます。今日も河原風物凄く硝子戸を揺ります。三月末まで此の辺はこんな風が吹くのだ相です。何時も冬がこんな風なら、家の建方を注意すれば良いのに、此の家なんかすきまだらけで、壁と窓、窓と敷居と云ふあらゆるつき合はせがすいてゐて、風の吹く日は忽ち埃でザラザラです。東京も空風が吹きあれてゐるでせう。

三日の空襲で、中野のある工場で五〇〇人も死んだとか風評です。中には女子挺身隊も沢山まざつてゐるとか。随分大勢の人がそんな事を云つてゐました。

昨夕から下痢で、今日は弱りました。家では良くお赤飯を作る、併も下手に。もち米とか小豆は不消化らしいのね。何時でもお赤飯の前後、下痢で困ります。どうも体力がよはつてしまつて、何も出来なくなりました。今日は朝掃除を済ませると、すぐ炬燵にはいりつきり、古典劇を引き出して来て、ねころび乍ら午前中すこしました。

コルネイユはルシッドのあと、シンナを読みました。シンナの方がまだずとましますね。偏見やかたくながすくなく、最後には了解から起る和解、新しい友情関係の出発がある。ラシーヌはフェードルを一ツよみました。フェードルには得るべき何物もないと思ひました。唯、コルネイユのドラマの恋愛関係より、フェードルの中のイポリットとアリシイの恋愛の方が、恋愛として進んでゐると思ひます。フェードルの恋愛感情はあまり同感出来ません。ルシッドで

もシンナでもフェードルでも、共通してゐる点は主人と侍女の関係が、オニールの仮面劇の様に、真実であらうと苦しみ斗ふ者と、理由をみつめて利己的自我を満足させようとする者との斗ひの形で出て来ます。そしてたいいてい侍女或は心腹の従者が、卑俗を代表して、そしてある程度勝利を得る。フェードルも侍女の言葉をうけいれて、フェードルは一步く落ちてゆきます。

今日はボオマルセエのセビイラの理髪師とフィガロの結婚をよみました。これは実に面白いですね。伯爵も医者も下男も、娘も下女もフキガロも、典型的な形でいづばいに活躍してゐます。特にフィガロの結婚の方はすばらしい。封建領主のアルマビバ伯、我まゝと利己主義と不信と好色と残酷さがとてもよく出てゐるし、ロジイヌと云ふ娘も愛には勝つが、結婚すると同時に消極的に受身になつて、たはいもない女にすぎなくなる。すばらしいのはフキガロの観察眼と鋭い批判、気転、健康な明るさです。一寸見はこれと云ふ信念などなさうでゐて、中々どうして人生に対しては、あくまで積極的で、健全で、愛情にかけても軽率でない。フキガロの妻となる筈のシュザンヌ、それからマルスリイヌ（女中）と云ふフキガロの母であつた女も実に堂々と世間を批判する。ルシツドやシンナ、フェードルの後でよむと冗長、誇大、みせかけがなくて、凡て生々としたテンポを持ち、健康な笑や批判にみちてゐます。フキガロの政治論などすばらしいではありませんか。そしてマルスリイヌの男性批判もすばらしい。（このあと戯曲「フィガロの結婚」からの抜き書きが便箋四枚余にわたり記されているが省略した―編者注）。

※この手紙文は、さきに掲載した一二月四〜五日記のものと共に、同五日消印の封筒中に挿入されていた。何らかの事情で紛れ込んだのであらう。なおこの九日記の手紙が本来入っていた封筒は発見されていない。

謙一から幸子あて（一九四四年二月一〇日の記）

十二月十日（日）快晴

久しぶりに怪物にゆり起されない朝でした。お天気はすばらしくて、あふぐ空をあをさ。陽の光の軽やかさ。冷いけれど、とげのない、むしろ身うちを引きしまらせる微風が、のどかにガラス戸を時々ガタンと云はせ、子供の声も街にほがらかです。之で日の丸の旗でもひるがへつてゐれば、子供の頃のお正月の感じですよ。

ところが今日もどかこのひろい大空のすみで、人間の憎悪と敵意とが兇悪にはばたいてゐる。人々はおびえにしみつけられた心を、このあをい空、輝く陽光にも開かれきれないでゐる。僕も日曜日は外出出来なくなりました。何しろ防空責任者だから。

島村君の所へも火曜日に行くつもりですが、之中々大変なのです。此の頃本室の用が多くて、八日以外は毎日出なければならなかつた。八日も大詔奉タイ日で式があつたが、この辺では午前七時から九時までは普通の切符を売つてくれないので、出なかつた。月曜(明日)も、他へ委嘱した原稿の稿料のことで出なければならぬ。みつちゃんも大変です。林健太郎君もこの二日に横須賀へは入りました。

田舎医師や村の司祭はバルザックのサン・シモンのなコント的な要素が出てゐる代表作で、ルーズヴェルトのやうに、国民の圧力でやるのとは根本的にちがふが、そのかはりルーズヴェルトの方が大きなこと、普遍的なことが出来る。いやルーズヴェルトがするのはなくて国民がやつてゐるのです。その国民のやる一番大きなことは、もう一つの国ですが。パチーギンの国ですが。アメリカには丁度バルザックの頃、ロバート・オウエンやフリーエ主義者の理想郷の試みが、いくつも試みられたものです。バルザックの若い理想主義が、サン・シモンの社会改良、農村改革に情熱をもつたことは、たしかにバルザック的ですが、結局それは理想主義的以上に出なかつた。サン・シモンやフリーエ以上に出なかつた。だが彼のリアリズムはサン・シモン主義を高潮しながらも、その根本的欠陥を指摘し忘れない。すなはち、さう云ふ理想主義的試みが成功し得るのは、現代社会ではむしろ偶然である、個人的である、決して必然的でないこと云ふことです。ルーズヴェルトの場合は必然的なのです。その必然性は国民の力そのものにある。バルザックはだから、田舎医師の場合も村の司祭の場合も、失恋のモメントと結びつけてゐる。しかもその失恋は、ヒューマニズムの力に充ちて描かれた「大失恋」(変な云ひ方だが、失恋にも偉大なそれと卑小なそれとがある)である。現代史の裏面も之とつながつてゐる。しかるにやがてバルザックは、かかる個人的問題提起、理想主義の無力を知る。そこから「農民」が出て来る。「農民」ではもはや問題は上からでなくて下から、個人的偶然的でなくて社会的必然的に、大勢の人間の現実的要求とたたかひ、としてあらはれる。この進歩。ここにバルザックの現実理解、歴史理解の正しさがある。

それにしてもあなたの「田舎医師」の理解は大変進んでゐます。ブナシスの解決の方法はとにかく(方法は個人的である)、方向は正しい。僕も大分前に読んだきりなので、あなたに説明してもらつてやつと想ひ出せる程度です。併しバルザックは実際強烈な力をもつてゐますね。僕はよくバルザックやシェクスピアを引き合ひに出し、みんなは僕を博